

2. さまざまな防除技術とその効果

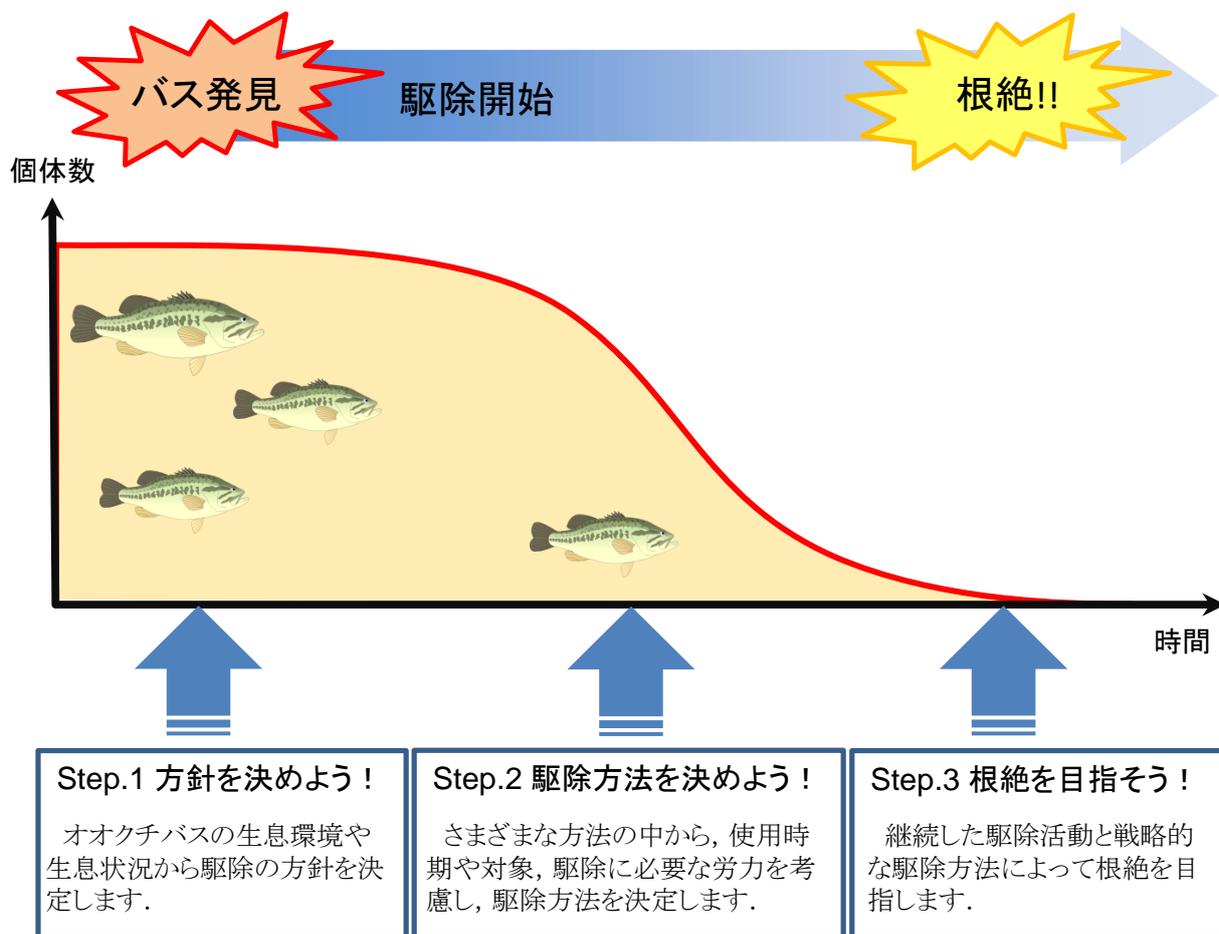
(1) オオクチバス駆除の進め方

藤本泰文・芦澤 淳(公益財団法人 宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団)

湖沼に分布するオオクチバスを根絶することは
並大抵のことではありません。
彼らの弱点を狙い、着実に駆除していく必要があります。
幸いなことに、繁殖期は彼らの弱点のようです。
効果的な駆除技術も出てきました。
これらをうまく組み合わせれば、
湖沼でもオオクチバスを根絶できるかもしれません。
伊豆沼・内沼を舞台に取り組んできた私たちが考える、
バス防除の効果的な進め方についての提案を、
次の3つのステップに分けて紹介します

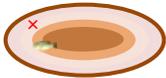


■バス駆除の進め方 3 step



■Step. 1 方針を決めよう！

オオクチバスの防除は、次の3つの方針のいずれかの方針で実施する必要があります。

分類	防除方法	
1. ため池 	方針1. 池干しで根絶可能 ため池の場合、池干しでバスをすべて駆除することができます。	
2. 湖沼 (or 池干しできない池) 	<p>■バス少ない(侵入初期) </p> <p>■バス多い(繁殖している) </p>	<p>方針2. バスが少数なら根絶可能 バスがまだ少なければ、根絶できます。電気ショッカーボートでの成功例があります。</p> <p>方針3. 根絶には年単位の時間 バスがたくさんいる場所では根絶に時間がかかります。Step.2以降をご参照下さい。</p>

STEP2 へ

注) 駆除前に相談を！:ため池の管理者や漁協, 水産試験場, ノーバスネット(<http://www.no-bass.net/>)などに相談して駆除しましょう。

■Step 2. 駆除方法を決めよう！

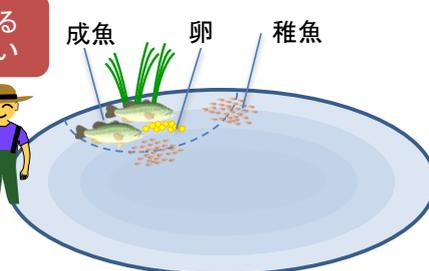
重要① バスの弱点は繁殖期

繁殖期(4~6月)

- 繁殖期には産卵場にバスの成魚・卵・稚魚が集まります。
- バスが産卵場所として好む場所は限られますので、狙いやすいのです。
- 逆に繁殖を抑制しなかった場合、たくさんのバスが増えてしまいます。

産卵場に来るので狙いやすい

効率高い



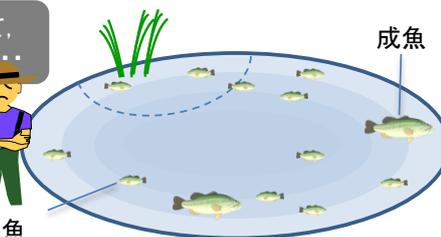
非繁殖期

- 非繁殖期には、沼全体にバスの分布が広がっていて、狙いにくくなり、駆除効率が低下します。
- ただし、小さな池の場合、池のほぼ全域で駆除することで、この時期でも防除効果が得られます。

散らばっていて、手に負えない...

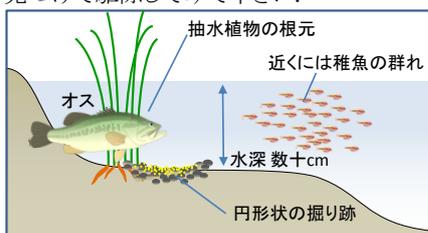
効率低い

幼魚



Step 2-1. 産卵場を見つけよう

駆除活動の最初は「やれることから始めるべき」だと思います…でも、産卵を狙う方が効率的。ぜひ、産卵場を見つけて駆除してみてください。



産卵場所発見のポイント



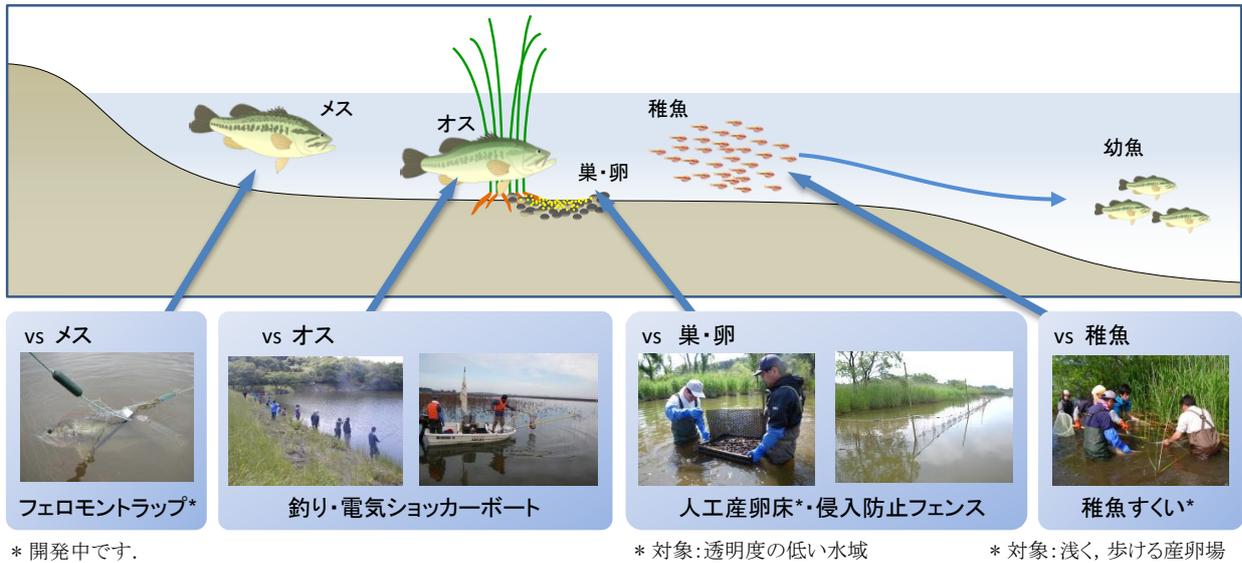
オオクチバスの産卵場



全長20 mm 以下の稚魚がいる場所が産卵場です。

Step 2-2. 繁殖を阻止しよう

産卵場の目星がいたら、取り組みそうな方法で繁殖抑制にチャレンジしてみてください。



駆除技術を解説したページ(P. 55～)を参考に、可能な方法をなるべく多く実施して下さい。

重要② 電気ショッカーボートは効果的



電気ショッカーボートとは、水中に電気を流し、しびれた魚を捕獲する方法です。その特徴は・・・

- ・捕獲効率が高い(第2章(4))
- ・繁殖期のオス成魚に効果的(第2章(8))
- ・バスを根絶した事がある(北海道)
- ・装置が高価
- ・船舶免許が必要

現在、全国に数隻が導入されており、全国内水面漁業協同組合連合会では貸し出しを行なっています。全国的に今最も注目されている駆除方法です。

Step 2-3. 活動を育てよう(=駆除圧力を高める)



初期は、稚魚すくいや釣りなど、すぐにできる方法で繁殖期に防除するのが効率的です。

それだけではバスを減らせない場合、駆除活動を発展させて、さまざまな防除方法を導入し、バスに対する駆除圧力を高めることが重要です。

